

言葉の獲得を促す幼稚園カリキュラムの研究

ー読み聞かせに注目してー

原田 義則*

(2022 年 3 月 22 日 受理)

Kindergarten curriculum research that encourages language acquisition:

Focus on storytelling

HARADA Yoshinori

要約

教育職員免許法の改正(平成 28 年 11 月)及び教育職員免許法施行規則の改正(平成 29 年 11 月)により, 幼稚園教諭の養成課程においては従来の小学校の教科に関する科目から, 幼稚園教育要領に規定する領域に関する専門的事項について修得することが求められている。領域「言葉」では, 絵本や物語などに親しむことを通して言葉が豊かになるようにすることが重要であるとする。

そこで本研究では, 幼稚園教育における絵本の読み聞かせを視点として, 言葉の教育について研究を進めた。成果としては, 鹿児島県内の教育委員会及び公・私立幼稚園から提供してもらった教育課程 11 冊, 経験年数 0.5 年～32 年の幼稚園教員合計 27 名へのアンケート, 実際の読み聞かせの動画分析を通して, 幼稚園現場における読み聞かせの実態の一端を確認することができた。

また, 経験年数が多い教員は, 読み聞かせと関連する活動を結び付けて展開できること, 園児の反応に合わせて相互交渉を行う場を設けるという傾向があること, 一方で学部卒業から年数が浅い教員の課題も垣間見えた。今後は, 経験年数の浅い教員を対象を絞り, 教育課程や指導計画, 評価記録の在り方や共有の仕方の観点から, 読み聞かせカリキュラムの具現化について研究を進める。

キーワード: 読み聞かせ, 言葉の獲得, 読み聞かせ, 幼稚園カリキュラム, 幼小連携

* 鹿児島大学 法文教育学域 教育学系 准教授

1. 研究の概要

(1) 研究の背景

教育職員免許法の改正(平成28年11月)及び教育職員免許法施行規則の改正(平成29年11月)により、幼稚園教諭の養成課程においては従来の小学校の教科に関する科目(小学校の国語, 算数, 生活, 音楽, 図画工作, 体育)から、幼稚園教育要領に規定する領域に関する専門的事項(健康, 人間関係, 環境, 言葉, 表現)(以下, 「5領域」と表記)について修得することが求められている。

改正された背景を「幼児教育部会における審議の取りまとめについて(報告)(平成28年8月26日)」から推測すれば, 今期学習指導要領の改訂が要因の一つとして考えられる。幼稚園教育要領では, 資質・能力の三つの柱を以下のように整理した。

- ・「知識・技能の基礎」

(遊びや生活の中で, 豊かな体験を通じて, 何を感じたり, 何に気付いたり, 何が分かったり, 何ができるようになるのか)

- ・「思考力・判断力・表現力等の基礎」

(遊びや生活の中で, 気付いたこと, できるようになったことなども使いながら, どう考えたり, 試したり, 工夫したり, 表現したりするか)

- ・「学びに向かう力・人間性等」

(心情, 意欲, 態度が育つ中で, いかによりよい生活を営むか)

この3つの柱は, 個別に取り出して身に付けさせるものではなく, 遊びを通した総合的な指導を行う中で育まれるものとする。また, 「5領域」の内容等を踏まえ, 5歳児修了時までには育ってほしい具体的な姿を「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年)に関連させ, 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(以下, 「10の姿」と表記)として明確化し, 小学校との共有を提言している。なお, 「10の姿」は, ①健康な心と体, ②自立心, ③協同性, ④道徳性・規範意識の芽生え, ⑤社会生活と関わり, ⑥思考力の芽生え, ⑦自然との関わり・生命尊重, ⑧量・図形, 文字等への関心・感覚, ⑨言葉による伝え合い, ⑩豊かな感性と表現の10項目である。

日本における幼小連携の歴史は古く, 幼稚園の創設期から検討されてきている。湯川(2022)⁽¹⁾は, 幼小連携の方法として「『媒介学校』ないし『接続級』を設置して, 接続期のカリキュラムを作成する, 子どもの発達の連続性を視野に入れて幼稚園と小学校の双方で幼小連携のカリキュラムを作成し, 適切な教育を行う」という2つの方法が実実施されてきたことを指摘する。同氏は「教育行政上の制度改革を伴い, 「幼稚園と小学校双方で指導理念の共有化を図り, 併せて小学校低学年教育改革を行う必要がある」と述べる。

平成29年に告示された幼稚園教育要領でも, 幼小連携の重要性は変わらず, むしろ一層推進することが求められ, 「5領域」「10の姿」「幼小連携」の視点からの再構築が重要とされているのである。

(2) 研究の目的

本研究では、幼稚園教育要領に示された「10の姿」の「⑨言葉による伝え合い」、5領域の「④言葉」に焦点を当て、特に幼稚園教育要領に示された以下の改訂箇所（下線は稿者による）に着目することで具体的な研究目的を設定することとした。

・領域「言葉」

ア 狙い

(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。

イ 内容の取扱い

(4) 幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際、絵本や物語に親しんだり言葉遊びなどをしたりすることを通して、言葉が豊かになるようにすること。

端的に述べれば、幼稚園教育段階では「絵本や物語に親しむ」ことを通して言葉が豊かになるようにすることが求められていることが分かる。

一方、小学校低学年における「言葉」をめぐる課題は、どのようなものか。以下、「小学校学習指導要領国語編 解説」の中から抜粋する（下線は稿者）。

○ 国語科の改訂の趣旨及び要点

①語彙指導の改善・充実

中央教育審議会答申において、「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」と指摘されているように、語彙は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。このため、語彙を豊かにする指導の改善・充実を図っている。語彙を豊かにするとは、自分の語彙を量と質の両面から充実させることである。具体的には、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語彙の質を高めることである。（後略）

○ 〔知識及び技能〕の内容

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

・語彙 語句の量を増すことに関しては、第1学年及び第2学年では、身近なことを表す語句の量を増し、第3学年及び第4学年では、様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、第5学年及び第6学年では、思考に関わる語句の量を増しとするなど、各学年において、指導する語句のまとまりを示している。（後略）

ちなみに、鹿児島県の全小学校が採用し、全国でも約69%の採択率であるM社の教科書「言葉の宝箱」では、低学年で指導したい言葉として、教科書巻末に以下の語句を掲載している。⁽²⁾

【人物を表す言葉 (20 語)】

ひょうきん おだやか いじっぱり こわがり がまん強い しょうじき しっかりもの
 思いやりのある やさしい 親切 気が弱い ちえのある どりよく家 そそっかしい
 いじわる たくましい 元気 前むき ゆうきのある 明るい

【事物を表す言葉 (20 語)】

よく分かる みごと ふさわしい あぶない 古い 新しい むずかしい かんたん
 べんり りっぱ ひっそり のろのろ すばやい きゅうくつ 目立つ 人気のある
 こまかい くわしい めずらしい きれい

すなわち、人物の性格や内面を表現する言葉や、「〇〇がよく分かる」「〇〇がみごと」などの生活場面に依拠する言葉の獲得が肝要であることが分かる。

再度、幼小連携及び言葉の教育の視点から、問題を浮き彫りにしよう。「5 領域」の「④言葉」の教育を通じて、「10 の姿 ⑨言葉による伝え合い」を達成し、小学校へ進学した子供たちの実態は、小学校学習指導要領において「語彙の量と質の差による学力差がある」と指摘されているのである。特に学校現場では、M社教科書「言葉の宝箱」掲載されているような「身近なことを表す語彙」を増す必要があるとされている。では、この問題を解決するには、幼稚園教育においてどのような指導が可能なのだろうか。

乳幼児の言語習得過程において、他者との相互交渉が不可欠であることは良く知られている。例えば、ペンシルバニア大学教育大学院言語教育学部教授のバトラー後藤裕子 (2021) ⁽³⁾ は、Strouse and Troseth 2014 を基に、3 歳児と保護者が物語ビデオを一緒に見る時、保護者が「対話的質問」をするグループと対話等をしないグループを比較し、4 週間後に行った理解と語彙のテストで成績の違いが大きかったことに言及し、「生身の人間との相互のやり取りが、子供の言語習得に非常に大きな役割を果たす」と述べる。

また、岡本夏木 (1982) の乳児における「微笑の共有」「視線の共有」「シグナルの共有」「テーマの共有」「経験の共有」といった、他者との関係性から言語獲得・行為へと発達していく論も多くの文献に引用されている。

幼稚園教育における言葉の教育を、これらの理論から見直したとき、教師や園児同士の相互交渉が最も重要であることが確認できよう。すなわち、領域「言葉」で明記された読み聞かせも、相互交渉の機会として捉え直す必要があることが分かる。一方的に聞かせるだけでなく、他者との相互交渉の中で人物の内面を表す語や、場面に依拠する言葉を学習していくと考えられる。絵本と他の活動を結び付けることにより、言葉が豊かになっていくのである。

しかし、2022 年現在、園児たちはパンデミックの真ただ中で暮らしている。相互干渉が難しい現在の社会で、今一度、幼稚園教育における言葉の教育に焦点を当てる必要があろう。そこで、本論は読み聞かせに焦点を絞り、指導計画や現場の先生方へのアンケートを通して、読み聞かせの現況や幼稚園教諭等の意識を探り、考察することを目的とする。

(3) 研究調査の方法

本研究の目的を達成するためには、先行文献等を踏まえつつ、令和4年現在の幼稚園教育の状況を踏まえた考察が肝要である。そこで、以下の研究調査を行った。

- ・対象：県内教育委員会（1）、県内公立幼稚園（1）、県内市立幼稚園（1）、県内認定こども園（2）
- ・期間：令和4年2月1日～令和4年3月22日
- ・内容：
 - ア 鹿児島県内幼稚園教育課程における読み聞かせに関する指導計画の有無
 - イ 幼稚園教諭へのアンケート調査
 - ウ 読み聞かせの実際の様子のビデオ撮影及び分析

2. 鹿児島県内幼稚園教育課程における読み聞かせに関する指導計画

(1) 幼稚園教育課程について

平成29年告示の幼稚園教育要領では、「教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの幼稚園教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする」と明記されている。具体的には、幼稚園教育において育みたい資質・能力を実現するために「5領域」の内容を踏まえ、人的・物的環境の確保や組織的かつ計画的な教育活動が展開できるようなカリキュラム・マネジメントの視点から作成することが必要とされる。また教育課程は、幼稚園教育全体の方針や、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を踏まえて作成することが肝要である。こうして作成された教育課程は、家庭や地域、進学予定先の小学校関係者と共有する上でも重要なものとなる。

(2) 指導計画について

各幼稚園では、作成された教育課程の内容に基づき、発達に即して一人一人の幼児が幼児期にふさわしい生活を展開し必要な体験を得るための具体的な指導計画が必要である。その内容の基本的事項としては、幼児の興味や関心及び発達、生活に応じた環境や自ら展開できる活動等を準備し、評価を適切に行い、常に改善を図るものとされている。したがって、指導計画には年間計画・月計画等の長期指導計画と、週案・日案等の短期指導計画があり、各幼稚園は独自の教育課程及び指導計画の策定及び活用が求められる。

さて、読み聞かせの指導計画を調査するために、幼稚園の活動全体を可視化した指導計画例を概観しておく。参照した資料は、文部科学省『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』

（令和3年2月）である。同書には、幼稚園教育全体の長期指導計画例として5つの事例、短期指導計画例として2つの事例が挙げられている。長期指導計画に共通する観点を書き出すと、いずれも「目標・ねらい・重点」「幼児の姿・発達段階」「教育内容」「環境構成」「地域・園内行事との関連」5項目が共通していた。例えば、指導計画事例（P106～P109）の枠組みを抜粋すると下図のようなものになる。ポイントは、総合的な計画として立てられていることにある。短期の指導計画例である週案・日案の枠組みも同様で、総合的な視点から書かれている。

表1 教育目標の重点と長期指導計画の例

時期	4 歳児Ⅱ期 (5月中旬～ 7月)	4歳児Ⅲ期(9 月～10月中 旬)
ねらい		
内容		
環境の構成		

表2 環境構成に重点を置いた長期指導計画の例

幼児の姿	
ねらい	
内容	
環境の構成の視点	

表3 週などの生活の区切りを単位とした短期指導計画(週案)の例

先週末の実態	遊びへの取組・人との関わり・生活への取り組み			生活習慣について		今週・次週の園行事	
ねらい			環境の構成				
内容			教師の援助				
	7月8日(月)	7月9日(火)		7月10日(水)	7月11日(木)		7月12日(金)
ねらい							
活動予定							
	7月15日(月)	7月16日(火)		7月17日(水)	7月18日(木)		7月19日(金)
次週の流れ							

表4 週などの生活の区切りを単位とした短期指導計画(週案)の例

4歳児				
ねらい				内容
時刻	生活の流れ	○予想される幼児の姿	★環境の構成	●教師の援助
8:40				

長期計画では「目標・ねらい・重点」「幼児の姿・発達段階」「教育内容」「環境構成」「地域・園内行事との関連」が総合的に示されるため、短期計画（週案・日案）は、幼稚園教諭等が使いやすいように「ねらい」「内容」「環境」に特化されている。したがって、同書に示された指導計画例にある読み聞かせについては、環境上の工夫や園児の姿として書かれている。例えば「共通のイメージをもちやすい共通の体験（絵本などの読み聞かせも含む）を工夫する」（同書P106）「降園時に集まって絵本を見て、和んだりホッとしたりできるようにする」（同書P126）などである。このように指導計画例からは、幼稚園教育要領が示す「絵本を通して、言葉が豊かになるようにする」ことについて言及する具体的方法等については読み取れない。

（2）読み聞かせの効果について

幼稚園において読み聞かせに用いられる本は、絵本が多い。余郷（2010）⁽⁴⁾ は、絵本画面におけるキャラクターの形・大きさ・色やページをめくることによるモンタージュ効果について言及している。ベビーシマの主人公、色彩の効果、画面をめくっていくことによる残像の組み合わせなど、紙媒体絵本ならではの特徴を挙げている。また中川（2020）⁽⁵⁾ は、時間・空間の進み方や事物の提示の違いから、線構造、円環構造、並列構造、対位法構造、変換構造等を示している。

また、文章表記上の工夫として、15画面構成の中で起承転結が効果的に理解できるように分ち書きをしたり、文字の大小や配置について工夫したりする特徴があることを述べる。加えて、「ので」といった接続助詞による画面と画面のつなぎ方や、オノマトペ、回文、だじゃれなどの多様な表現が見られることも絵本の特徴だとする。中川はこれらの特徴を、絵本の視覚表現・言語表現とし、この視点からの言葉がけが大切だとしている。

三森（2002）⁽⁶⁾ も「子供は『目』と『耳』で絵本を読む」とし、見た絵と聴いた文章から意味付け、推論、因果関係の認識、解釈・判断・批判等の論理的思考を経て、行動や発言等へ至るとする。そして絵本の絵や文章について働きかける際は漠然と問いかけるのではなく、テーマ（主題）、設定、登場人物、色調・色彩、象徴、構造等の指標を設定し、それに沿って働きかけることが良いとする。また働きかけの一例として、本に書（描）かれていることがらについて直接尋ねる質問の直接的な会話だけではなく、「登場人物の行動や単語の意味を説明したり、物語と子供の実生活を関連付けたり、文章や挿絵をもとに予想や推論をしたりする」非直接的な会話も必要とする。この方法は、家庭における読み聞かせの方法とよく似ている。ジム・トレリス⁽⁷⁾ の「子供をその腕に優しく抱きしめることのできるテレビは、まだ発明されていない」という文言を引きつつ、余郷（2010）は読み聞かせとは母から子への授乳であるとした。親子間の読み聞かせとは、親子の視線が交わされる中で、絵本の構造を踏まえた直接的・非直接的な会話が交わされ、そのことにより想像の世界が広がり、語彙を習得していくのであろう。このプロセスは前述した、他者との相互交渉による言語習得理論とも関係付けられよう。すなわち、絵本における教師と園児、園児同士の相互交渉では、直接的・非直接的対話が重要であると考えられる。

読み聞かせの効果としては、様々な方面から語られている。泰羅（2009）は、読み聞かせを聞く子供の脳を調べた結果、感情を司る大脳辺縁系が刺激されるという。さらに、音読などの作業によって思考や創造の働きをする前頭連合野が刺激されるとする⁽⁸⁾。言い換えると、読み聞かせを聞いたり、聞いた言葉を発したりすることで脳が刺激されるとも考えられる。2014年に国立大学法人お茶の水女子大学が文部科学省委託研究として発表した「不利な環境(Lowest SES)にもかかわらず、学力が上位1/4に入る児童生徒(学力A層)の特徴として、「とくに家庭における読書活動が子どもの学力に最も強い影響力を及ぼす。その影響力は中学校に比べ小学校で大きい」⁽⁹⁾としたデータと符合させると興味深い。読み聞かせの効果を教育界に広く示した『クシュラの奇跡—140冊の絵本との日々』⁽¹⁰⁾では、重い障害をもって生まれたクシュラに、母親の読み聞かせにより豊かな言葉を知り、3歳の時点では健常児をはるかにしのぐ得意の分野をもつに至ったことが記されている。また、ジム・トレリスは小学1年生時に読み聞かせをしてもらった回数が多いほど、PISA調査の読解力テストの得点が高いという結果から、低年齢からの読み聞かせを強く勧める⁽¹¹⁾。

以上のように、絵本の構造や読み聞かせの効果については、広く知られるところである。では、幼稚園教育において、実際にどのような形で実施されているのだろうか。以下、調査結果と考察を述べる。

(3) 読み聞かせの計画の有無

鹿児島県内の教育委員会及び公・私立幼稚園から提供してもらった合計11冊（県内公立幼稚園8冊、県内市立幼稚園3冊）の教育課程には、本論が対象とする読み聞かせに関する指導計画としてどのようなものが掲載されているか。教育課程上の「絵本」「読み聞かせ」等の表記を拾い出した結果が表5-1である。なお、1園は読み聞かせに関するリスト資料を別冊として作成していたので表5-2に別掲した。

表5-1 県内公立幼稚園及び私立幼稚園（10園）の教育課程に見られる「読み聞かせ」等の記載

教育課程全体の総頁数の平均値	5歳児対象長期計画上の「絵本」「読み聞かせ」等の平均記載箇所	5歳児対象の短期計画上の「絵本」「読み聞かせ」等の平均記載箇所
76.5頁 ○記載例 園の方針、特色、グランドデザイン、月別の行事計画等	1.5か所/12頁（一か月の活動計画を一覧できるもの） ○記載例 毎月の指導計画「予想される幼児の活動」及び「保育資料」の項目の一つとして「絵本」を位置づけ、1年間を通したブックリストが記載されており、年間を通した読み聞かせが展開されている。	3.5か所/64.5頁（各行事の内容、1日～1時間で終了するもの） ○記載例 節分、ひな祭りなどの行事と読み聞かせが関連付けられており、主に読み聞かせは各行事の導入活動例として記載されている。

表 5-2 県内公立幼稚園及び私立幼稚園（1 園）の教育課程に見られる「読み聞かせ」等の記載

教育課程全体の総頁数	5 歳児対象の短期計画上の「絵本」「読み聞かせ」等の記載箇所
191 頁	126 か所 ・ 毎月の読み聞かせリストが 1 冊

教育課程の書かれ方としては、総合的な視点で園児の活動を書いてあるものや、毎月の行事・一か月を通した活動をセットで掲載されている指導計画など、各幼稚園の特色が生かされたものが多かった。

例えば、J 幼稚園の計画には毎月の指導計画上に「保育資料」という項目が設定され、絵本のブックリストが毎月の活動と関連付けられるように明記した指導計画も見られた。J 幼稚園の 1 月指導計画には、園児の姿として「休み明けなので早くリズムを取り戻せるように・・・」「友達と楽しく会話することができるように・・・」「正月遊びを通して・・・」という文言が見られ、絵本リストには「十二支の話」「ともだちや」「だるまちゃん」とてんぐちゃん」などが準備されている。すなわち、ブックリストに挙げられた絵本と、一月の教育活動がしっかりと関連付けられていることが読み取れた。また、表 5-2 に示したように 120 頁以上に上る月別の絵本リストを教育課程の別冊として作成している S 幼稚園もあった。

これら 2 幼稚園の他にも、読み聞かせに関する記載が見られたものもあった。しかし、多くの教育課程は先述したように総合的な視点から記述されたものが多く、表 5-1 のように記載箇所は少ないものが多かった。したがって、各幼稚園がどのような読み聞かせを展開しているか、状況を把握することかできなかった。では、実際に読み聞かせはどのような頻度・内容で実施されているのか。4 幼稚園 27 名の幼稚園教諭等にアンケート調査を行うことで、傾向をつかむこととした。

4. 幼稚園教諭へのアンケート結果

下記の要領でアンケート調査を実施した。アンケート内容については、令和 4 年 2 月に今藤いずみ氏（幼稚園在職年数 41 年、園長経験有）に精査していただいた。ここに記し謝辞としたい。

なお、集計にあたっては、単純集計後に回答傾向の違いが顕著にみられる「経験数 5 年」を境目として、再度集計した。また、本稿の目的は、幼稚園ごとの差異を明らかにするものではないので、集計にあたっては経験年数による差異だけに注目している。

(1) アンケートの方法及び内容等

○ アンケート対象

・ 県内公立幼稚園 1、私立幼稚園 3 の教諭等合計 27 名（経験年数 0.5 年～32 年）

○ 実施期間 令和 4 年 2 月

○ 実施方法 アンケート内容の説明(訪問、電話による)した後、郵送で回収

○ アンケートの設問

Q 1 あなたのことを教えてください。(所属園、職名、在職年数)

Q 2 読み聞かせは、月に何回実施しますか。当てはまる記号に○をしてください。

【ア毎日 イ週に1～3回 ウ月に1～3回 エ年に1～3回 オ特に決まっていない】

Q 3 読み聞かせで用いる本は、次のどのジャンルが多いですか。(複数回答 可)

【ア絵本(民話や物語など) イ図鑑など ウ言葉遊び(早口言葉など) オその他】

Q 4 読み聞かせに関する計画がありますか(複数回答 可)

【ア読み聞かせと他領域の内容を関連させた年間計画がある イ読み聞かせに関する詳しい年間計画がある(例:毎月の選書リスト、行事との関連を明記している)

ウ読み聞かせの指導事例・保育事例がある エ公立図書館・学校図書館と連携(本の貸借、読み聞かせボランティアの出張等)する年間計画がある オ保護者と連携(親子読書会等)する年間計画がある カその他】

Q 5-1 読み聞かせが、園児の「ことば」を豊かにしていると感じる場面がありますか。

【アある イない】

Q 5-2 上記で「ある」と答えられた方にお聞きします。それは、どんな場面ですか。

【自由記述】

(2) 集計結果

・設問2～設問4の回答

経験年数	5年以下						経験年数	5年以上					
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ		ア	イ	ウ	エ	オ	カ
問2	8	0	1	0	2	0	問2	10	1	0	0	7	0
問3	8	2	0	1	0	0	問3	17	0	3	1	0	0
問4	6	1	0	1	2	1	問4	1	2	0	2	7	5
問5-1	6	5	0	0	0	0	問5-1	16	0	0	0	0	0

・設問5の回答

経験年数	5年以下	5年以上
問5-2	絵本口調で繰り返しの言葉を真似ているとき 虫図鑑、恐竜図鑑の中身を記憶しているとき 子ども同士の会話の中で登場人物の言葉を真似ているとき 絵本や紙芝居の言葉を楽しんだり、遊びや生活の中に取り入れて楽しんでいるとき	絵本の言葉の繰り返し、絵本の人物の言動の真似をしている子ども同士の会話、教師との会話の中で生かしている子ども同士の会話の中で登場人物の言葉を真似ているとき 知らない単語の説明を読み聞かせの中で知り、納得している様子を見せているとき 絵本を真似て文章を書いたり絵本作りをしているとき 物の表現をするときに様子を細かく伝えるようにするとき 入園児は言葉を発しなかった子供が言葉を発するようになったとき 自分の経験(どんぐり、まつぼっくり)と結びつけ話題を分か

	(ありがとう, かして, ちょうだい) 知らない言葉を聞いてくる とき	ち合っているとき 人の気持ちの表現の仕方を実際にしているとき 友達と話をしているときにわかるように伝えている 言葉を介して絵本世界の想像を広げているとき 本を読んだ感想を伝え合うとき, 題名, 文字, 言葉に興味を示すとき 絵本に出てきた言葉の意味を尋ねてくるとき 遊びの中で自然に出てきているとき 絵本の中の方言を真似て使っているとき 早口言葉逆さ言葉などの言葉遊びを自ら楽しんでいるとき
問 6	絵本を読んだ後に劇遊びへとつなげる エプロンシアター 園内行事で芋ほりをするときに掛け声をかけさせる 食育とつなげた苗植えや収穫との関連付け 劇, 絵, ペープサート繰り返し言葉, 登場人物の名前を一つ一つ数えるように丁寧に読む 子供たちの顔の表情を見ながら絵本の楽しさを共感する 積み木やブロックを組み立てるときの共同作業をするとき ごっこ遊びとの連続	うんとこしょの場面では絵本を動かす, 役になり切って一緒に言わせる, 体を動かすようにする 読み聞かせ後, 劇遊びへとつなげている 登場人物の順序に気を付けて丁寧に伝える, 掛け声を一緒に発声させる 絵本世界に入るような環境づくり, 言葉かけ, 歌を歌う, かぶについて調べさせる 絵本の表紙や見開きページを使った工夫 登場人物と関連する話をする 食育とつなげた苗植えや収穫との関連付け 劇遊び, 絵本作り, お面作り, 運動遊び, 創作のお話作り 他のどのような動物が出てくるか予想させる, ペープサート, パネルシアター, 音楽劇 かぶ以外のものを引っ張るオリジナルストーリーを作る, 劇遊び かぶに類似した植物や野菜を育てることによる食育につなげる

(3) 考察

コロナ禍で休園が続く状況ではあったが, 4園 27 名の方々に快くご回答いただいた。ここに記し深謝したい。さて, 今回のアンケート母集団が少ないため推測の域は出ないが, 設問 2 及び設問 4, 設問 5-1 において回答傾向が違ってくるのが分かった。

まず, 経験年数 5 年以下(以降の表記は「5 下」)の教員が設問 2(読み聞かせの実施回数)及び設問 4(読み聞かせ計画の有無・種類)に関する回答では, 「毎日実施する・他領域と関連させた計画がある」と答える割合が高い。しかし, 問 5「言葉を豊かにしている場面の見取り・読み聞かせ活動の豊富な実践例の記述」では, 「豊かにしていると感じる場面は無い」とする回答が半数をしめ, 実践例の記載量も少ない。表記も「劇遊び」, 「エプロンシアター」など, 活動内容を表わす単語のみの表記が目立った。一方, 経験年数 5 年以上(以降の表記は「5 上」)は, 読み聞かせの回数は特に決まっていないとしつつも, 園には読み聞かせに関する様々な指導計画があるとする。特に, 「5 下」と「5 上」の大きな違いは「5 上」の全員が「読み聞かせが, 園児のことばを豊かにしていると感じる」としている点である。その具体的場面として, 読み聞かせ途中の教員に対する質問や, 日常生活における園児同士の対話等の具体例が数多く挙げられていた。また, 「5 上」の読み聞かせ実践例

もアンケート用紙いっぱいを書いてあるものが多く、その内容も読み聞かせ前・中・後の活動や遊びや行事との関係づけを強く意識していた。

もちろん今回の調査結果は、前述したように複数の幼稚園をまたがって、経験年数だけに着目して集計したものである。調査対象の中には、読み聞かせに関する詳細な計画を立てている幼稚園もあり、幼稚園ごとに回答の結果が違ふことも予想された。それでも、各園の状況を超えて、設問 5 に対する反応に経験年数による差異があることは見逃せない。

総括すると、「5 下」の教員は読み聞かせを毎日しているが、その有効性の評価方法や展開力において、「5 上」の教員と比較して課題がある傾向が見られた。では、「5 上」の教員は、アンケート調査で見られたような工夫を実際にはどのように行っているのか。実際の読み聞かせの場面の録画から、その概要を確認する。

5. 実際の読み聞かせの様子から

(1) H幼稚園における読み聞かせ

園児 14 名に対して、担任教師に読み聞かせを行っていただき、録画記録を行った。以下、絵本に関する直接的対話と、絵本の内容から発展した対話である非直接的対話に着目し、録画記録から読み聞かせの様子を紹介する。

- ・日時 令和 4 年 2 月 18 日 (金) 11:30～11:40
- ・絵本：『せいちゃん』（作・絵 松成 真理子、出版社 ひさかたチャイルド）
- ・概要：いつも一緒に過ごしていたせいちゃんとの別れと再会を描いた作品。自転車の擬音や季節の変化が、楽しく美しく描かれた絵と相俟って、語り手であるぼくとせいちゃんの心情が豊かに表現されている。
- ・読み聞かせの実際（絵本の著作権の関係上、対話の概要を紹介する。）

時間	絵本画面	教師の直接的対話	教師の非直接対話	園児の反応
0 分	表紙の絵	<ul style="list-style-type: none"> ・(椅子を前に一つ置き、教師は園児に対して半身になって向き合っている。) ・どんな顔をしている。(園児の答えに頷く) 		<ul style="list-style-type: none"> ・(膝を抱えて、床の上のマットレスに座っている。全員、静かに聞いている。) ・びっくりしている。 ・にっこりしている。 ・優しいような顔。
0 分 27 秒	第 1 場面～ 第 18 場面	(絵本のテキストを読み聞かせる、時々顔を上げて園児と視線を交わす。)		・郵便で一す(絵本テキストを繰り返して発音)
4 分 52 秒	第 19 場面	<ul style="list-style-type: none"> ・(春の場面。テキストがないので、絵だけを園児に近付けるようにして見せる。) ・(再会した二人は)何して遊んでいる？ 		<ul style="list-style-type: none"> ・遊んでる。 ・木に登ってる。 ・ぶらんこしてる。 ・自転車に乗ってる。

		・(反応した園児の言葉を繰り返したり、頷いたりしている。)		
5 分 20 秒	第 20 場面 (最終場面)	(テキストの読み聞かせ)		
5 分 47 秒	表紙裏の絵	・(表紙裏を示しながら)おしまい。		・ありがとうございました。
5 分 57 秒			<ul style="list-style-type: none"> ・みんなもさ、春になったら会いたいお友達いる？ ・先生ね、この絵本呼んでたら、一人、お友達が浮かんできたよ(片手に絵本を持ちながら語りだす)誰が浮かんできたと思う？ ・あつ、ちょっとおいしいなあ(膝を叩く動作をする) ・じゃあ、春になったら会ってみたいお友達・・・ ・〇〇君・・・ ・また、もしかしたら春になったら、おばあちゃんのところに帰ってくるかもね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本にいる(親戚のこと)・・・
7 分 31 秒			<ul style="list-style-type: none"> ・そして、春になったら、〇〇組のみんなはどうなるんだろう。 ・嬉しいね・・・ ・みんなが大きくなるのは嬉しいけど、さみしいね。だから、あとちょっと一杯いっぱい幼稚園で遊ぼうね。 ・はい、では終わります。(片付け、昼食準備へ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇くん・・・ ・なんだっけ、なんだっけ。 ・あっー〇〇君。(1人園児がのけぞって納得した様子を見せる、2人の園児は話し合っていて確認している様子。) ・〇〇君とまた会いたい。 ・一年生になる。 ・(反応なし、中には首を振っている園児もいる)

(3) 考察

時間の経過を確認すると、①表紙の絵に係る教師からの発言(27秒/458秒)、②絵本の読み聞かせ(337秒/458秒)、③春になった時の〇〇君や当園の話題(94秒/458秒)という構成である。時間の割合にすると、①約6% ②約73% ③約21%である。読み聞かせなので、②の時間が多いのは当然であるが、③の時間が全体の約二割も占めていることに注目したい。

①の時間は、本文テキストの読み聞かせではなく、表紙絵に関する園児との相互交渉の時間である。絵本に関する話題なので、上表では直接的対話として整理した。事後の教師へのインタビュー

ューから、絵本表紙の主人公の表情について、「どんな顔」という質問をすることで、園児から複数の回答を引き出すことに心掛けたという。園児たちは、主人公の笑顔が描かれた絵について、口々に言葉を発した。教師は、園児の言葉にじっと耳を傾け頷き、発言が止まった時に絵本の読み聞かせをスタートさせた。

③の時間は、絵本を読み終えた時間である。絵本と離れた話題だったので、非直接的会話として整理した。この話題の提示についても、インタビューを行った。以下は、その記録である。

- ・稿者：今日の読み聞かせの計画は最初から準備していましたか。
- ・教師：2月という時期も考え、子供たちが「成長」を感じられる絵本を用意しました。
- ・稿者：読み聞かせの終わりに、アドリブのようなセリフがいっぱい出てきた。あれは最初から意図していたのでしょうか、それとも咄嗟に出てきたのですか。
- ・教師：子供たちの表情を見ていたら「あっ」と感じるものがあったので・・・ちょっと投げかけてみました。子供たちも、よく反応してくれました。

教師は、読み聞かせを聞き終えた園児の表情から引越していった友達のことを思い出していると感じたという。そして、5分57秒から始まる非直接的対話を行ったのだ、と話してくれた。長い教員歴の中で蓄積された教師力が、発揮された場面であると思われる。教師のこの働きかけにより、園児たちは絵本と実生活を結び付け口々に言葉を発した。コロナ感染症の予防のため遠距離からの撮影であることから、園児たちの小さな声までは録音できなかった。しかし、多くの園児たちが動作を交えて、楽しそうに会話をする様子を記録できた。読み聞かせを契機として、教師と園児、園児同士の相互交渉が図られ、先生や友達と心を通わせた事例であった。

6 . 研究の成果と課題

今回、読み聞かせを視点として、幼稚園教育における言葉の教育について研究を進めた。特に、鹿児島県内の教育委員会及び公・私立幼稚園から提供してもらった教育課程11冊、経験年数0.5年～32年の幼稚園教員合計27名へのアンケート、実際の読み聞かせの動画分析を通して、幼稚園現場における読み聞かせの実態の一端をうかがい知れたことが大きい。

その結果、読み聞かせについては、幼稚園教育課程上では、取り扱いの軽重があることが分かった。また、アンケート回答からは経験年数が浅い教員は、読み聞かせの効果を的確に評価したり、多様な活動と結び付けたりすることまでには至っていないように思われた。一方で、所属園の教育課程上の記載の有無とは関係なく、経験年数が多い教員は多様な活動と結び付けて展開できること、園児の反応に合わせて相互交渉を行う場を設けるという傾向が分かった。

今後は、経験年数の浅い教員を対象を絞り、教育課程や指導計画、評価記録の在り方や共有の仕方の観点から、言葉が豊かになる読み聞かせカリキュラムの具現化について研究を進める。

7. 参考文献

- 1 湯川嘉津美「幼稚園と小学校の連携・接続をめぐる歴史的検討」『月刊国語教育研究』No.598, 2022. 2
- 2 光村図書出版, 「2020 年版 光村の完全活用ガイド 国語『光村の語彙力を高める言葉の宝箱』
- 3 バトラー後藤裕子『デジタルで変わる子どもたち ―学習・言語能力の現在と未来』 (ちくま新書, 2021.2)
- 4 余郷 裕次『絵本のひみつ―絵本の知と読み聞かせの心』(南日本新聞開発センター, 2010.12)『絵本のひみつⅡ』(南日本新聞開発センター, 2020, 1)
- 5 中川素子「絵本各論 視覚表現 言語表現から見た絵本」(『認定絵本士養成講座テキスト』, 独立行政法人国立青少年教育振興機構絵本専門誌委員会, 2020.12)
- 6 三森 ゆりか『絵本で育てる情報分析力―論理的に考える力を引き出す』(一声社, 2002.12)
- 7・11 ジム・トレリース著, 鈴木徹訳『できる子に育つ 魔法の読みきかせ』(筑摩書房, 2018.3), ジム・トレリース 著, 亀井よし子訳『読み聞かせ―この素晴らしい世界』(高文研, 1987.12)
- 8 泰羅雅登『読み聞かせは心の脳に届く』(くもん出版 2009.7)
- 9 国立大学法人お茶の水女子大学「文部科学省委託研究『平成 25 年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』について」(2014.3)
- 10 ドロシー・バトラー著, 百々佑利子訳『シュラの奇跡―140 冊の絵本との日々』(のら書店, 2006.3)